

はじめに

公立千歳科学技術大学 学長 川瀬 正明

本学は平成 10（1998）年に千歳市を母体とする公設民営の大学として、最先端の光科学技術の教育と研究を特徴とした光科学部・2 学科体制で開学しました。その後の社会環境の変化や科学技術の進展とともに対象とするフィールドを徐々に広げ、平成 20（2008）年には 3 学科構成とし、平成 27（2015）年に現在の理工学部 応用化学生物学科、電子光工学科、情報システム工学科の体制となっています。

このように開学以来、大学のあるべき姿について不断の議論を重ね、改組改革を行って参りましたが、将来を見据えた大学改革を推進し、地域社会における知的拠点としての役割を担う大学として教育・研究を展開し、地域に貢献していくために、平成 31（2019）年 4 月に千歳市による公立大学法人設立にあわせて公立千歳科学技術大学の開学に至りました。従いまして、この令和元（2019）年度年報は公立大学として最初の活動状況報告となります。

今年度は、教育改革の柱として取り組んできた「大学教育再生加速プログラム 高大接続改革推進事業 V.卒業時の質保証」の最終年度にあたり、WG をベースにした全学的な体制による取り組みに基づき、全学的授業改善の推進と、本学のどの分野で学んでも、数理情報系に強い、これからの社会で必要とされ、活躍できる人材の育成に向けたカリキュラムの再構築を実現しました。また、教育改革に必要となる施設の建設に向け新棟の基本設計を実施しました。

地域貢献活動は従来から教員による公開講座、学生プロジェクトチームの理科工房による理科実験授業等、精力的に推進してきましたが、さらに本学の知恵と人材を活用して地域の発展に寄与する「スマートネイチャーシティちとせ構想」を推進する組織として、“地域連携センター” を新たに設置し、「知の拠点」「人材の拠点」「地域・社会貢献の拠点」となることを目指した活動を開始しています。

このほか、文部科学省ナノテクノロジープラットフォームの実施機関として「分子・物質合成プラットフォーム」を構築し、企業等への技術支援を行っています。また、本学を核に産学官共同研究システムの構築を目指す特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム（略称:PWC）と連携をとって各種研究プロジェクトを推進しています。

大学を取り巻く環境は大きく変化していますが、特に年度末には新型コロナウイルス感染症が急速に蔓延し、公立大学として最初の学位授与式を中止するに至りました。そのほかにも種々の予定を変更せざるを得ない事態となりましたが、今後も教職員一丸となってこのような予測しがたい事態にも対応しつつ、教育、研究、地域貢献に邁進してまいりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。